別添

【調査概要】

調査対象者：ワークステーション※で生活している津軽ダム本体工事の従業員

調 査 項 目：1 ヶ月間に日用品や食品に消費した一世帯あたりの金額と購入した地域

実 施 時 期：平成 21 年度～平成 24 年度
（調査結果は、4 年間の平均値より算出）

※ ワークステーション（右写真）：
津軽ダム建設工事に従事する作業員のための宿舎。最大 200 名程度が生活。



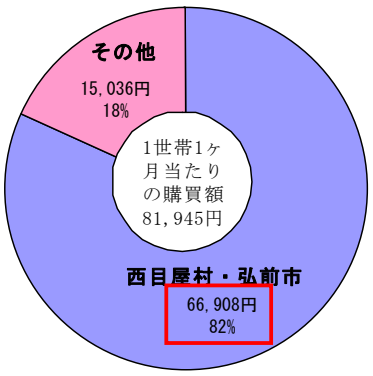
▲写真　ワークステーション

【調査結果】

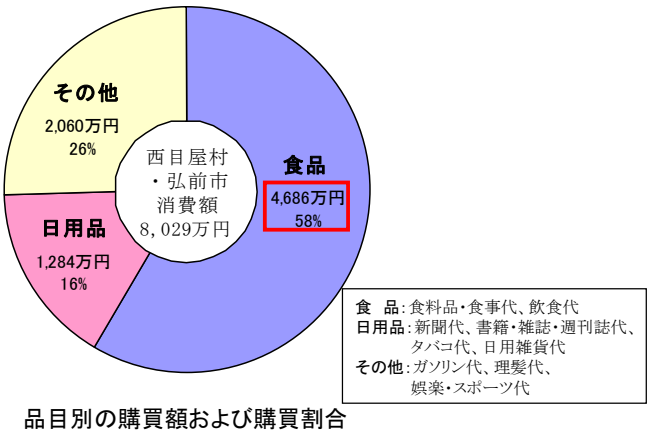
１)津軽ダム本体工事従業員の消費額

- 日常生活で１ヶ月間に消費した金額は、１世帯平均約 81,945 円/月であり、そのうち、**８２%にあたる約 66,908 円/月は、西目屋村または弘前市で消費**されました。
- 従業員全員(約 100 世帯）の年間消費額に換算すると**約 8,000 万円／年**となり、津軽ダム建設事業による経済効果が、間接的に周辺地域に発現したと言えます。

- 従業員一世帯が１ヶ月間に消費した金額は、平均81，945円/月
- そのうち82%にあたる66，908円/月が、西目屋村または弘前市で購入
- 従業員全員（約100世帯）の年間消費額に換算すると**約8，000万円/年**。
  年間の購買金額＝66,908円/月×100世帯×12ヶ月＝8,029万円/年
- 西目屋村または弘前市で消費された品目の58%にあたる4，686万円/年は「食品」が占めている。



買い物場所別の購買額および購買割合



品目別の購買額および購買割合

２)消費された各品目の地域別内訳(1年間の推計値)

・ 品目別にみると「食品」が全体の５８％（4,686 万円/年）を占め、そのうち**「食料品・食事代」に 3,135 万円/年が消費**されました。その他には西目屋村や弘前市で「ガソリン代」や「娯楽・スポーツ代」が多く消費されています。

